

第2回水と緑の森づくり会議（H28.9.2） 議事概要

意見交換

○滝川委員

- ・（みーも事業現場は）遊歩道が使われておらず、補助がなくなった後の対応が課題と感じた。他の活動団体と協力してイベントを開催したりすれば、あの場所をもっと活用できるし手入れも続けられると思う。他団体と連携すれば、解決策もあるかもしれない。
- ・（再生の森は）事業目的が国土保全にあることを、森林所有者に理解されているのかわからない。所有者負担なしで整備ができることや、営利が事業に取り組む動機になっているのは、いかがかと思う。もっと広葉樹が生える山を作っていくことが理想なのではないか。
- ・今回初めて現場を見て、水森事業の実施団体が他の団体の現場を見る機会やツアーなどがあると、参考になって良いと思った。

○和田委員

- ・大田市は、（緑と水の連絡会議以外に）みーもの森づくり事業の活動がない。その理由は、事業に関心のある団体が少ないからなのか、事業が周知されていないからなのか。
- ・何がきっかけで事業を活用し始めたのかが知りたい。興味のある人だけでやるのではなく、県からの働きかけで、県全体において事業に取り組む機会を平等に与えてほしい。
- ・山の公益的目的が達成されるように、継続性のある息の長い事業になると良い。
- ・ドイツには、山を診断し、山ごとに違うプランを山主に提案できる「森林マイスター」がいる。日本もそうになってほしい。
- ・次世代を担う子どもの山離れがこれ以上進まないように、一校一山運動を広めるべき。熱心な学校にお金を交付することはいいことだと思う。

○亀井委員

- ・今日は教育現場からの視点で山を見た。普段は気にしていなかったが、下刈りされて

いない山が非常に多い。現場に行ったことで気づかせてもらった。

- ・（みーも事業の）場所を選定する際に、山登りに興味のある団体などと一緒に検討すると、事業後も人目が届き、場所の活用や整備の際の協力につながる。
- ・（再生の森現場を見て）森は家に似ていると思った。森も家も、長い間人が入らず風通しが悪いとすぐに朽ちて危険なものになってしまう。森には手入れをしないとイケないことが、もっと多くの人に伝われば、事業もうまくいくと思う。森を安心、安全な場所にするような森づくりを進めてほしい。
- ・県は循環型林業を推進しているというが、伐採木の再利用として薪の安定供給に力を入れてほしい。

○藤原委員

- ・（みーも事業現場は）ベンチが使われている様子がなく、もっと継続性があるといいなと感じた。
- ・現在地籍調査で隣接する土地所有者と何度も山に入る機会があり、自分より若い世代の 8 割くらいは、自分の山をいらないと思っているのではないかと感じる。世代が替わると山が手入れされないので、他からの出助けが必要となる。私の地元では、何年にもわたり色々な補助事業を使って住民らにより整備が進んでおり、山がきれいになってきたように思う。